

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等の 事前キャンプ誘致の推進について

1 東京2020オリ・パラ競技大会 事前キャンプ地誘致に向けた取組について

(1) 組織委員会が作成する「事前キャンプ地候補地ガイド」への掲載

概要 リオ五輪の開催に合わせ、各国のオリ・パラ委員会等に対して、組織委員会の公式HP上で紹介するもの。

現状 本県では2市（2施設）が掲載に向けて手続き完了。

（平成28年8月頃に公開予定）

今後の動き 意思表示申請書提出期限：平成28年7月31日（日）

(2) 全国知事会によるスポーツ施設マッチングサイト「Sports Camp Japan」への登録

概要 スポーツ施設や宿泊施設等の情報を一元的に集約したデータベースへの掲載。

現状 本県登録数 [H28.2現在]

6 スポーツ施設（宿泊施設は登録なし）

今後の動き 3ヶ月に1回程度の更新を予定。

全国知事会から通知があり次第、手続き等について各市町村へ周知する。



(3) 市町村等意向調査の実施

概要 県が、各市町村等に対して事前キャンプ誘致の意向を調査するもの。

現状 第2回（H27.11実施）調査結果 16市町村（21競技）について受入意向あり。

（詳細は本日配付の「岩手県スポーツキャンプガイドブック」4頁参照）

今後の動き 第3回意向調査を、本年8月頃に行う予定。

（調査結果は公表を前提とし、以後の取組に活用していく。）

(4) 「岩手県スポーツキャンプガイドブック」の発行

第2回意向調査を踏まえ、関係市町村と連携しながら、県が平成28年3月に発行。

今後、組織委員会や国内の競技団体等へ配付する予定。

2 ラグビーワールドカップ2019 事前キャンプ地誘致に向けた取組について

平成28年5月に、ラグビーワールドカップ2019組織委員会から「公認チームキャンプ地選定プロセス概要」が発表される見込み。

（参考裏面）

「ラグビーワールドカップ2019 公認チームキャンプ地の選定プロセスについて」

ラグビーワールドカップ 2019 公認チームキャンプ地の選定プロセスについて

(組織委員会作成資料より抜粋)

公認チームキャンプ地 (RWC2019 組織委員会による一元管理)	事前チームキャンプ地 (RWC2019 組織委員会の管轄外)
大会期間 (2019. 9 月 XX 日～大会終了)	大会期間外 (～2019. 9 月 XX 日)
宿泊費、移動費、食費等は組織委員会負担	宿泊地、移動費、食費等はチーム負担
RWC 関連商標等の使用権利あり (条件付き)	RWC 関連商標等の使用権利なし
RWC2019 組織委員会を通じて交渉	自治体による直接交渉

※出場チームとの交渉は RWC2019 組織委員会及びラグビーワールドカップリミテッドが一元的に管理するもの。チームキャンプ候補地自治体が出場チームと直接交渉（連絡）を行うことは原則としてない。

◆ 公認チームキャンプ地 選定要件（以下全ての施設が近い範囲内にあることが望ましい）

- ・ チームホテル（選手・スタッフ約 50～60 名が宿泊）
- ・ 屋外練習場（ロッカー・医務室等を完備した天然芝ラグビーピッチ）
- ・ 体育館（十分な高さのあるバスケットコート 1 面以上の施設）
- ・ トレーニングジム、屋内プール等
- ・ 上記 5 施設を提供できる日本国内の自治体

◆ 公認チームキャンプ地 選定プロセス（予定）

2016 年 5 月（予定） チームキャンプ地選定プロセス概要発表
 2016 年夏～2017 年春 自治体から応募受付及び RWC2019 組織委員会による審査
 2017 年夏～秋 公認チームキャンプ候補地決定、出場チームによる視察
 2017 年冬～ 公認キャンプ地として決定
 2019 年 9 月～ ラグビーワールドカップ 2019 日本大会

◆ RWC2019 チームキャンプ地選定プロセスの流れ（予定）

